

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
轟亮・竹内慶至		todoro@staff.kanazawa-u.ac.jp	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
小林 大祐		金沢大学 文学部 人間学科 史学科 / 人間社会学域 人文学類 人間科学コース・フィールド文化学コース	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査発展演習A	KNZa-150801-2	10人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

先行研究の検討、質問項目の作成、調査票（原稿）の作成、標本の割付、データクリーニング、データエディティング、データ分析、調査報告会の実施、報告書の作成など、調査の全過程に学生は参加し、役割を担った。すべての学生が意欲的に実習作業に取り組み、良い研究成果を得たものと評価している。

モニター型のインターネット調査によって実査を行ったため、先行研究の探索と、探究課題の検討、質問項目作成、データ分析に多くの時間を割くことができた。学生の柔軟な発想により、従来になかった新しい質問項目を設定することができた。一方サンプリング等の学習については、図上演習的に行った。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

若年世代の仕事と生活に関する調査

2. 調査の内容／概要：

調査会社のモニターから回答者を選び、ウェブ法によって回答を得た。社会意識・生活行動の質問項目と、基本的な属性項目を設定してデータを得、階層変数、性別、年齢等との関連、意識変数同士の関連について、統計的に分析を行った。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

インターネット調査会社の登録モニターのうち、調査時点で、満20歳～29歳男女（1986年～1995年生まれ）の男女。サンプルサイズ（目標回収数）は1000。当該年齢階級5歳刻みの地域（5区分）人口比（男女別）で割り当てを行った。登録モニターから回答者を選定する方法は、ランダムに抽出して回答依頼を調査会社が配信し、目標回収数を得たセルは打ち切る形で行った（ただし、若干のタイムラグが生じるため、回答数が目標を超えたセルもある）。

4. 主な調査項目：

外国に対する好感度、自尊感情、自己責任を求める態度、嫌消費志向、マイノリティに対する寛容性、企業帰属意識、昇進志向、交友行動などの他、階層帰属意識、生活満足度、社会的属性項目。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

インターネット調査。（調査会社による依頼、調査会社サーバによる回答回収）

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2015年12月4日（金）～7日（月）。全国。調査員は用いていない。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

目標回収数は1000で、目標数の回収を得た（1052ケース）。インターネット調査であるため有効回収率は通常のように計算できない。「わからない」などのDK回答選択率から厳しめに判断した場合でも無効票率は低く、一般的な学術的インターネット調査の質は確保できたと判断する。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

SPSSを用いて統計的な分析を行った。クロス表分析、相関分析、重回帰分析、分散分析などを行った。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

従来の若者研究で指摘されていない変数間関連を確認した。例えば、権威主義的態度が高いほど、マイノリティに寛容であるという予想外の結果が得られ、若年層の権威主義的態度がある種の「まじめさ」「優等生的見解」の反映であることが推察された。また、努力が報われない社会であるという認識が、仕事への楽しさ志向を高めていることがわかった。

10. 報告書刊行の予定と概要：

2016年度中に実習報告書を刊行する予定である。実習参加学生のレポートをリライトし、章を構成する。調査概要、調査票、コード表、基礎集計表を掲載する。